

需要予測の再精査等について

需要予測の再精査

需要予測の再精査の目的

交通需要予測全般について、予測の信頼性、透明性確保等を目的に、平成22年4月21日に国土交通省内に「将来交通需要推計検討会議」が設置され、予測の改善についての検討が進められている。平成22年8月19日には「将来交通需要推計の改善について【中間とりまとめ】」（以下、「中間とりまとめ」という。）が発表され、主に交通機関間の推計の整合性の確保が図られた。

また、平成22年5月20日に開催された行政刷新会議において、過去の航空需要予測における予測値と実績値との乖離についての指摘を受けたことから、国土交通省において分析した航空需要予測の乖離分析結果（以下、「乖離分析結果」という。）が平成23年4月28日に公表された。

福岡空港の航空需要予測について、最新の知見やデータを基に、適切な予測となるように従来から行っているが、このような航空需要予測をとりまく状況の変化を受け、改善された予測手法を用いて再精査を実施することにより、予測の信頼性をより確保するものである。

PI時と需要予測再精査時の比較

・需要予測の再精査の結果、PI時の需要予測値を下回ったが、他の検討項目を含め、その影響は軽微であり、平成24年3月2日の第4回福岡空港技術検討委員会において、追加して検討する事項がないことが確認された。

事項		PIレポート			今回		
		下位	中位	上位	下位	基本	上位
需要予測	旅客数(年間)	1,964万人	2,137万人	2,293万人	1,895万人	1,985万人	2,295万人
	発着回数(年間)	17.0万回	18.1万回	18.8万回	17.3万回	17.6万回	19.1万回
		(2032年度)			(2030年度)		
増設滑走路諸元	増設滑走路位置、種別、形状	長さ2,500m、幅60m			同左		
空港能力	滑走路処理容量	18.3万回/年					
高さ制限	進入表面	住宅・事業所に抵触し 移設が必要(8件)【注】					
	転移表面						
周辺への影響	空港拡張面積、 面積に含まれる可能性のある物件数	約12ha、約30件【注】					
	騒音対策区域	騒音の影響は、現行の区域内 に収まる結果だが、環境アセスマ ント時に精査が必要			PIで示した影響範囲より小さくなる ことが想定されるが、環境 アセスメント時に精査が必要		
工事着手後の工事期間		約7年【注】			同左		
概算事業費		約1,800億円【注】					
社会経済的な効率性	費用便益比【注】	下位	中位	上位	下位	基本	上位
		1.5	2.3	3.0	1.4	1.6	2.5
		いずれも、社会経済的にみて 実施する価値がある 事業と考えられる			同左		

【注】今後、さらに詳細に検討していくため、変更となる可能性がある。

滑走路増設案の概要

ターミナル施設ゾーニング図

